

古代アメリカ研究会

会報

No. 1

CONTENTS

古代アメリカ研究会の発足に際して

古代アメリカ研究会発足式兼1996年度第1回総会の報告

事務局からのお知らせ

97年度総会について

古代アメリカ研究会の

発足に際して

会長 大貫良夫

このたび、かねてからの有志の者の熱意により、古代アメリカ研究会が発足のはこびとなりました。同学の皆様とともにこれを喜びたいと思います。そして1996年6月22日の総会において、研究会の名称が決まり、私が会長に選出されました。微力ではありますが、役員や一般の会員の皆様のお力を得て、この大役を務めてゆく所存でございます。

さて、この研究会は何をめざすかということで、いろいろ議論がありました。総会での大方のご意向として、まずはラテンアメリカ地域の先史学・考古学の研究をする者の集まりであるということですが、同時にラテンアメリカのみならず、北アメリカにおいても、文化的アイデンティティーの模索中であるいは観光政策推進の中で、先コロンブス期の諸文化やその歴史が大きな役割を果たしていることもあり、現代における先コロンブス期文化という問題も、私たちの研究会の視野に入れるべきであると思います。あまり範囲を狭くせず、さまざまな観点からの先史文化・先コロンブス期の文化を対象にした研究者の集まりとすべきであります。そしてそれらに関するの精力的な研究の推進とその成果の普及をこの研究会の使命と考えます。

役員との役割分担も決まりました。それぞれの役割の分野での活動が企画されてゆくわけですが、会員皆様のご協力をお願いいたします。

古代アメリカ研究会発足式 兼1996年度第1回総会の報告

1996年6月22日(土)の午後1時30分より「新研究会発足式」、そして引続き研究発表会が、東京大学教養学部11号館1101番教室で開催されました。概略は以下のとおりです。

古代アメリカ研究会発足式兼第1回総会

1 定足数の確認

会員数40名。出席者数15名、委任数9名により、総会は成立した。(会員以外の方が4名出席したが、投票権は認められなかった。)

2 新研究会設立委員会会計および監査報告



3 研究会名称について

事前のアンケートの結果は、

- ・古代アメリカ研究会 (20票)
- ・先史アメリカ研究会 (7票)
- ・その他 (3票)

であった。

これを受けて同日午前中に新研究会設立委員会役員会が開かれ、折衷案の「古代アメリカ文化研究会」が総会で示されたが、投票では次のような結果となった。

- ・古代アメリカ文化研究会 (3票)
- ・古代アメリカ研究会 (12票)

よって、新研究会の名称は、「古代アメリカ研究会」に決定した。

4 会則案について

細かいツメは、今後新役員に委ねることになるが、次の2点が確認された。

- ・当面研究会費は年2000円とし、会誌は販売するものとする。
- ・事務局は大学・研究機関に設置する。

5 助成金受託の件

第1回総会開催前に申請してあった福武学術文化振興財団の「学会・研究会開催助成」が受託され、35万円が支給されることが決定し、次回総会の開催の際にこの助成金を使用されることが報告された。

6 新役員を選出

投票権のある会員による投票が行われ、次のように選出された。(敬称略)

<会長>

大貫 良夫 (次点: 高山 智博)

<代表幹事>

中村 誠一 (次点: 他6名)

<事務幹事>

長谷川 悦夫 (次点: 多々良 穰)

※この結果、事務局は東京大学教養学部文化人類学教室に設置された。

<監査委員>

柳沢 健司・多々良 穰
(次点: 馬瀬 智光)

7 研究会新会長の挨拶

古代アメリカ研究会 研究発表の部

<発表要旨>

1 アンデス文化におけるミドル・ホライズンの歴史的役割

馬瀬 智光(京都市埋蔵文化財調査センター)

南米アンデス地域において、文化史上3つのホライズンと呼ばれる時期が存在する。その2番目の時期であるミドル・ホライズンは、ワリ文化の急速かつ広範な広がりの特徴としている。この文化は、ペルー南部海岸との前中間期(Early Intermediate Period)以来の密接な繋がりのある在地文化が、チチカカ湖畔のティアワナコ文化の強い影響を受けて成立したと考えられており(Schreiber 1987: 91)、現在のペルーのアヤクチョ県のワリ遺跡をその中心としていた。この急速な文化伝統の広がりを、帝国主義的国家的拡張に伴うものであるとする意見もある(ibid.: 94)。従来その特徴として認められてきたものには、類似した建築構造と平面プランをもつ都市遺跡と、両手に杖を持ち、放射状に突起物の伸びる頭衣を被った神像を中心とする個性の強い文様群であった。

しかし、個性の強いワリ文化が後のアンデ

スの諸文化に与えた影響を考古学的資料として確認することは非常に困難である。考古学的資料として、平面プランや貯蔵施設の形態の類似性から、チムー文化の中心遺跡であるチャン・チャン遺跡にその影響の結果を求める意見(Isbell 1988: 189)も多いが、この評価のもつ問題点として、チムー成立以前に北部海岸では、シカン文化の発達認められる。その中心地域であるバタン・グランデ遺跡にはワリに特徴的な長方形ないし方形の区画(エンクロジャー)は確認されず、逆にワリの諸遺跡には認められないピラミッド構造の巨大構造物を複数配置するモチエ文化の影響が強く残っている点がある。つまりチムーの建築形態はワリの影響を受けて成立したというよりも、独自に発達したと考えた方がよいのではないかと考えられる点である。また、もう一つのワリの顕著な特徴である土器様式も各地に模倣・派生スタイルが作られるが、後期中間期にその影響をとどめるのはワリのイコノグラフィではなく、南部海岸に起源をもつ橋状把手付双注口土器の定着である。

多くの研究者に語られてきたこれらの特徴は、確かにミドル・ホライズンという時代の明確化には有効と考えられる。しかし、ワリ衰退期にその影響が著しく減少する点で、アンデス文化の継続的な進展にこの文化の果たした歴史的役割を示す指標とはなりにくい。それでも、明らかにワリ文化の影響を受けた変革の波は、その文化領域から外れる北部高地や北部海岸にも認められる。そして、この変革を最も端的に表出しているものとして埋葬形態の変化を上げることができるが、従来深く考察されることはなかった。その変化とは、「伸展葬」から「しゃがみ(座位屈)葬」への変化である。

今回の発表では、この埋葬形態の変遷過程を具体的な資料を通じて明確にすることを目的とし、モチエ谷、サンタ谷、チャンカイ谷、チジョン谷、アンコン谷、イカ谷、リオ・グランデ・デ・ナスカ、アヤクチョ盆地出土の各埋葬資料を分析に用いた。このうち、ミドル・ホライズンを挟んだ初期中間期と後期中間期(Late Intermediate Period)を通じて変化を追認できるのはわずかに、モチエ・チジョン・イカ・ナスカの4流域であるが、北部・

中部・南部の代表的な文化ゾーンであり、それらの特徴と単独時期の他地域資料を組み合わせることでアンデスの、特に海岸地域の葬法の展開をある程度明らかにしえようとする。

各谷の葬制の変遷を分析した結果、前期ホライズン以来一貫して「しゃがみ葬」を主流の埋葬姿勢に適用してきた南部海岸のイカ・ナスカ流域を除き、初期中間期の段階では主流を占める埋葬方法は伸展葬であった。それがチャンカイ谷やチジョン谷資料などからミドル・ホライズンには「しゃがみ葬」への転換がみられ、後期中間期になるとすべての流域で「しゃがみ葬」に変化していることが確認される。

今後、これらの変化の背景にあったワリのもたらした葬送儀礼とは何か。何故、「伸展葬」を変更する必要性があったのかを検討しなければならないが、そのヒントになりそうな資料としてシカンにおいて使用された二つの埋葬方法が考えられる。

2 土器の属性分析が語るもの ～ウスルタン土器から～

佐藤 悦夫 (富山国際大学)

1. 発表の目的

土器の比較研究のための方法論について考える。

1) 現在までウスルタンは、土器の胎土、表面調整、文様などの属性から分析されてきた。器形の属性から何がわかるかを検討したい。

2) 土器の器形の属性の中で、どの属性が重要かを把握し、報告書の土器の記述の中で器形に関する共通した記述の様式を検討したい。

2. 分析の方法

1) チャルチュアパ遺跡のウスルタンの器形に関する Sharer の抽出した属性をもとに、ウスルタン土器の比較を行った。

2) 比較の視点

a) ウスルタン発生の地の一つと考えられるエル・サルヴァドル北部の5種類のウスルタン土器の器形の属性の特徴およびその変遷の過程を捉える。

b) 同時代の土器と器形の視点から比較してウスルタンの特徴を捉える。

c) 周辺地域で出土するウスルタンの土器

を器形の視点から比較する。

3. 分析の結果

1) 5種類のウスルタンの器形の属性において連続性はあるか？

2) 同時代の他の土器と比較してウスルタン独自の特徴はあるのか？

3) 周辺地域で出土するウスルタンはどの特徴を有したウスルタンか？

4. まとめ及び今後の課題

* 土器の器形の属性の比較が土器研究の一つの有効な手段であるならば、客観的資料として有効に活用できる報告書として、どのような共通の記述の様式を提示したらよいか

* どこまで細かく分ける必要があるのか？

3 ペルー北部の形成期 ～サーニャ谷一般調査の結果から～

井口 欣也 (新潟大学)

報告者は1995年10月から11月にかけて、Elmer Atalaya とともにペルー北部サーニャ川流域を中心とする地域で一般調査をおこなった。サーニャ谷およびその周辺地域は、海岸のセンター遺跡プルレン、そのやや内陸にあり、金製品出土で知られるセロ・コルバッチョ、コレクターの所有するいくつかの祭祀土器の出土地とされているカヤルティ、「チャビン・スタイル」の多色岩絵で有名な上流域のポロ・ポロなど、注目すべき形成期遺跡の存在が知られている。しかし、一般調査は、Dillehay (1986) の報告などわずかにあるのみで、形成期における全体的把握はこれからの課題となっている。今回の調査では約35の遺跡（うち形成期遺跡は10）を登録した。

今回の発表では、調査で得られた資料に加え、既存の研究や同地域出土のコレクションなども参考にしながら、隣接するランバイエケ川流域、ヘケテペケ川流域との関連などについて考察する。

役員を選定・依頼について

総会後、大貫会長が運営委員を選び、次の

方に役員をお願いして快諾を得ました。よって、次の方々によって、今後2年間運営されることになりました。あらためて紹介します。(敬称略)

- 会 長： 大貫 良夫 (東京大学)
代表幹事： 中村 誠一 (民族学振興会)
事務幹事： 長谷川悦夫 (東京大学大学院博士課程)
監査委員： 多々良 穰 (東北学院榴ヶ岡高等学校)
柳沢 健司 (埼玉県上福岡市教育委員会)
運営委員： <編集担当>
猪股 健 (イエール大学)
落合 一泰 (茨城大学)
関 雄二 (天理大学)
<広報担当>
高山 智博 (上智大学)
八杉 佳穂 (国立民族学博物館)
<会報担当>
馬瀬 智光 (京都市埋蔵文化財調査センター)
杓谷 茂樹 (総合研究大学院大学博士後期課程)

事務局からのお知らせ

年も明け、新しい一年の始まりを迎える今日この頃、会員のみなさまにはいかがお過ごしでしょうか。さて6月22日の研究会設立総会において、「古代アメリカ研究会」という名称も決まり、役員も選出されました。しかしながら、夏から秋にかけての期間中、会長、代表幹事、事務幹事の3人が海外のフィールドに出ることになり、当研究会の活動があまり進まないという状況になっておりました。やむをえぬこととはいえ、お詫び申し上げます。総会後の役員が集まりで以下のことが決まりましたのでお知らせ申し上げます。

・会則について

総会でも確認されたとおり、会則の細かな点に関しましては、役員会で相談の上、97年度の総会においてご報告します。その際、会員のみなさんの意見をお受けいたします。

・会誌について

総会でも確認されたとおり会誌の購読料は会費には含めず、販売とします。会誌の編集方針、投稿規定は編集担当の運営委員で決定し、97年度総会でご報告申し上げます。

・会費について

会員一人年間2000円。96年度分の支出については寄付金でまかなうことにし、97年度分からお納めいただきたいと思っております。郵便局の以下の口座に振り込みいただくようお願いいたします。

振込先：10070-67349651
古代アメリカ研究会

97年度総会までに納入いただくようお願いいたします。

今後とも会員のみなさんのご協力をお願い申し上げます。

97年度総会について

日時：5月25日(日)午前9時から午後5時まで。(午前中は総会、午後は研究発表会)

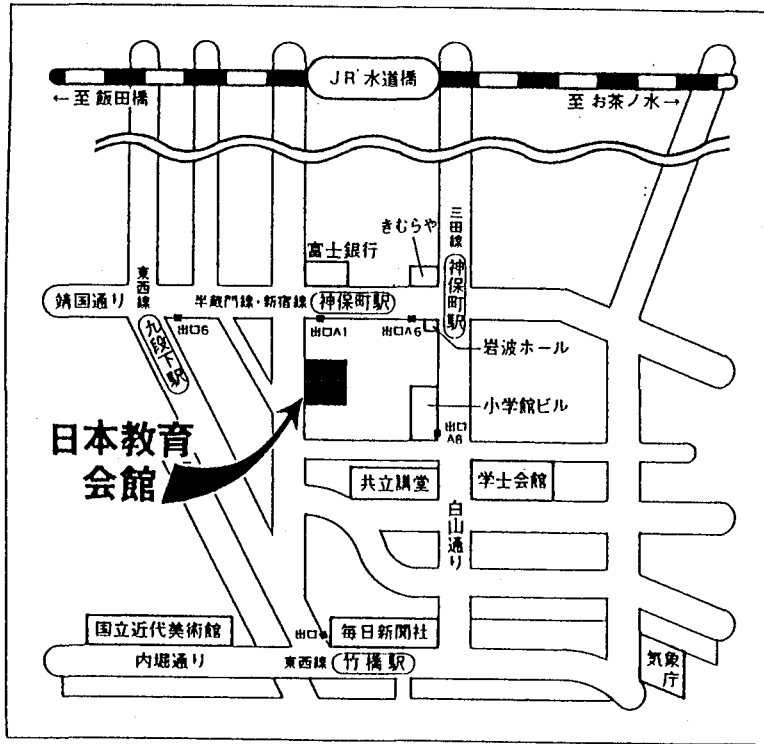
場所：日本教育会館(別掲略地図を参照ください)

東京都千代田区一ツ橋2-6-2

電話：03-3230-2831

FAX：03-3230-2834

なお、午後の研究発表の部で、発表を希望される方は2月29日までに発表要旨を添えて事務局までお申し込みください。発表時間は20分程度を予定しております。



編集後記

「新研究会」という何とも奇妙な名前で産声を上げて1年。会員各位のご協力のおかげで、この会も「古代アメリカ研究会」という立派な名前がつき、正式に発足する運びとなりました。名称のみならず、会の組織、会則と器の方は着々と出来上がってきていますが、あとは内容がいかにもなるかです。そもそもこの研究会は日頃指導者に恵まれない若手研究者・学生が自らの研究成果を披露し、互いに切磋琢磨する場を求めて集まったのが始まりでした。将来的には「学会」に格上げするという目標がありますが、その一方で若手が自由に思い切った議論を戦わすことのできる雰囲気はずっと持ち続けていけたらと思います。これからの日本の古代アメリカ研究のために。

(S.S)

発行 古代アメリカ研究会
 発行日 1997年1月22日
 編集 杓谷 茂樹・長谷川悦夫
 多々良 穰・馬瀬 智光

古代アメリカ研究会事務局

〒153 東京都目黒区駒場3-8-1
 東京大学教養学部
 電話：
 FAX：
 郵便振替口座：10070-67349651